

慣れた手つきで削岩機を使う浅見さん。大工の友人に指導してもらいながら改装作業が進む。「早く完成させて災害ボランティアで来てくれてる人が休めるスペースにもしたい」と話す。

※ゲストハウス…旅行者のために比較的安価な料金で利用出来る宿泊施設を指す。ホテルとは違い、トイレ、バスルームなどが共用の場合もある

大津のことがもっと好きになる情報誌

おおづ

7

JULY 2016
町村合併 60 周年記念



今月のみどころ

熊本地震支援お知らせ(7月1日版)

熊本地震で被災された皆さんへ 新たな支援や変更になったものなどチェックしてください

日本と台湾をつなぐ！新しい絆！ 美咲野小×光榮国民小 姉妹校締結式

ついに実現した姉妹校締結式 大津町の未来への第一歩を踏み出した子どもたちの様子をお伝えします

「通り過ぎる町から 立ち寄る町へ」

あさみ ひろし
浅見 浩志さん (大津)

日曜の昼過ぎ、削岩機の音が響く。岐阜生まれで大津に移住した浅見浩志さんの家からだ。浅見さんはある思いのために自分の手で家を改装している。今回はそんな浅見さんをクローズアップする。

春、6年勤めた会社を辞めた。4月16日の本震時は就寝中、自宅を迎えた。子どもたちの部屋に刷り込まれた防災訓練の記憶で無意識のうちに机の下へ。天井が大きく形を変える中で死を覚悟した。

揺れがおさまり静まり返るその中で思ったことは、「やはり、やらねば。」浅見さんは家を飛び出した。大津に住んだ6年間で夢ができた。それは参勤交代の時代に栄えた宿場町大津を取り戻すこと。歴史を勉強すればするほどに大津の魅力の原点がもてなしの心だと気づく。借りた古民家を改装し、地域の人たちと国内外の旅行者がふれあうことができる場所「大津ベース(※ゲストハウス)」を作りたい。思いはこの震災でより一層強くなった。

なぜ岐阜に帰らず大津に住み続けることを選んだのか。「同じ夢を持つ人と出会い、一緒に語り合える私にとってぜいたくな環境があったからです。あえて言うなら大津で出会った人たちが魅力的だったからです。」浅見さんは照れながら笑う。

平日は新しく決まった仕事のために福岡へ、週末は自宅の改装をする生活。

「大津町の一番の魅力は『人』です。人を好きになってもうえれば私みたいに立ち止まりたいと思う人が出てくるかもしれません。いろいろな人に手伝ってもらいながら通り過ぎる町から立ち寄る町につながる場所を作っていきたいです。」

真っ赤な作業着に白いペンキの跡、地域の応援を受けながら夢に向かうひたむきな姿は復興へ進む大津町の姿と重なる。夢を語る浅見さんの瞳の奥には真剣な光が宿っていた。

からいもくん便り

大津町総合情報メール
携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。
登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。

▼ボランティアアセンタが町運動公園から社協前に引越しました
▼和歌山からのボランティアの皆さんが球技場の観覧席を掃除していました。眼下に広がるコートを見て「大津にはこんな美しい芝生があるんですね」とお褒め頂き自分のことのように誇らしくなりました
▼ご当地自慢をさせてください
「復興したあと今度は遊びにきますよ」と言っ
て頂き、胸が熱くなりました
▼雨の季節もみんな乗り越えていきましょう (IDEO)